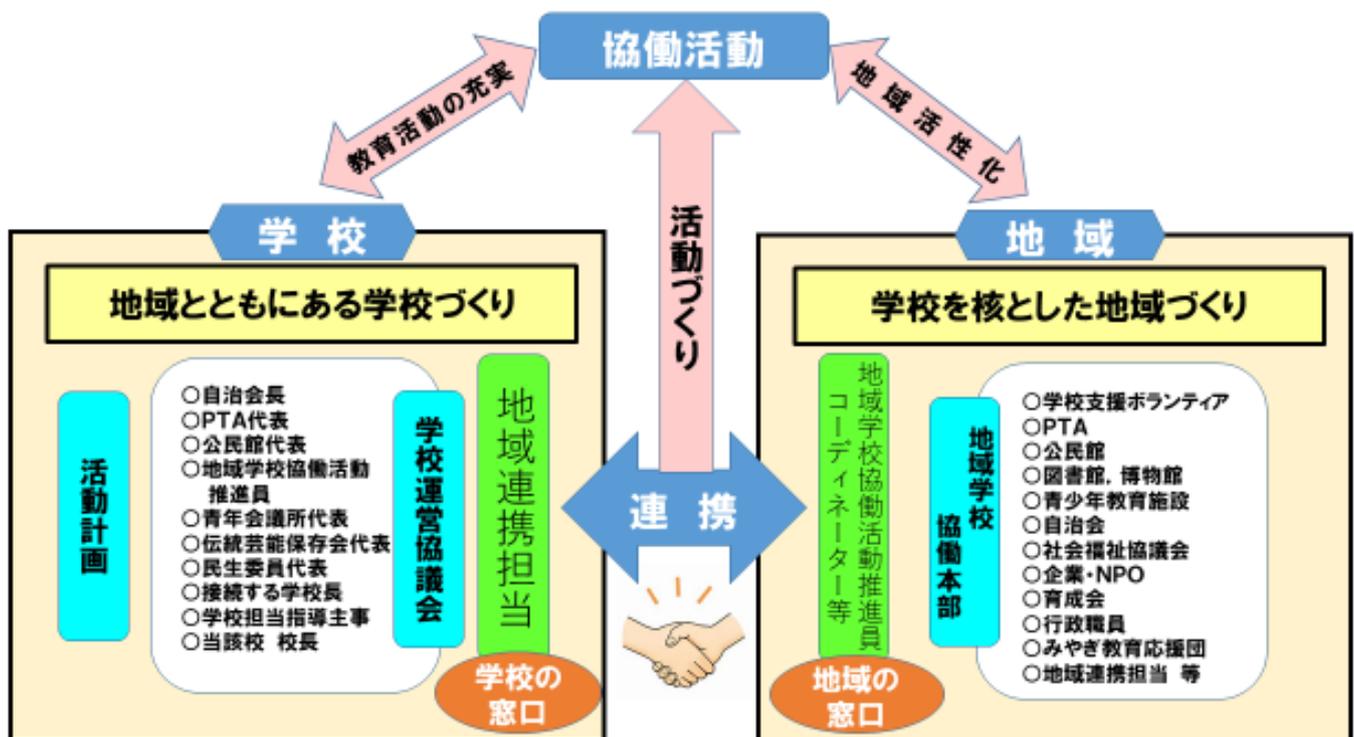


3 地域連携担当の役割

(1) 地域連携担当を設置する目的

地域連携担当設置の目的は、地域連携に関する学校側の窓口を明確にすることで、校内の体制を整備し、学校と地域が連携した教育活動を効果的・効率的に展開していくためです。地域学校協働本部の構成員となることが求められ、コーディネーターや行政職員とのコミュニケーションも必要とされます。

地域連携担当が目指す地域との連携体制の例として、下のような体制が考えられます。地域連携担当は、学校の活動計画をまとめ、この計画を基に、地域側の窓口であるコーディネーターにボランティアを依頼したり、共に活動づくりを行ったりします。学校運営協議会がある場合には、承認された学校運営計画に沿って、活動計画を作成します。



(2) 地域連携担当の職務

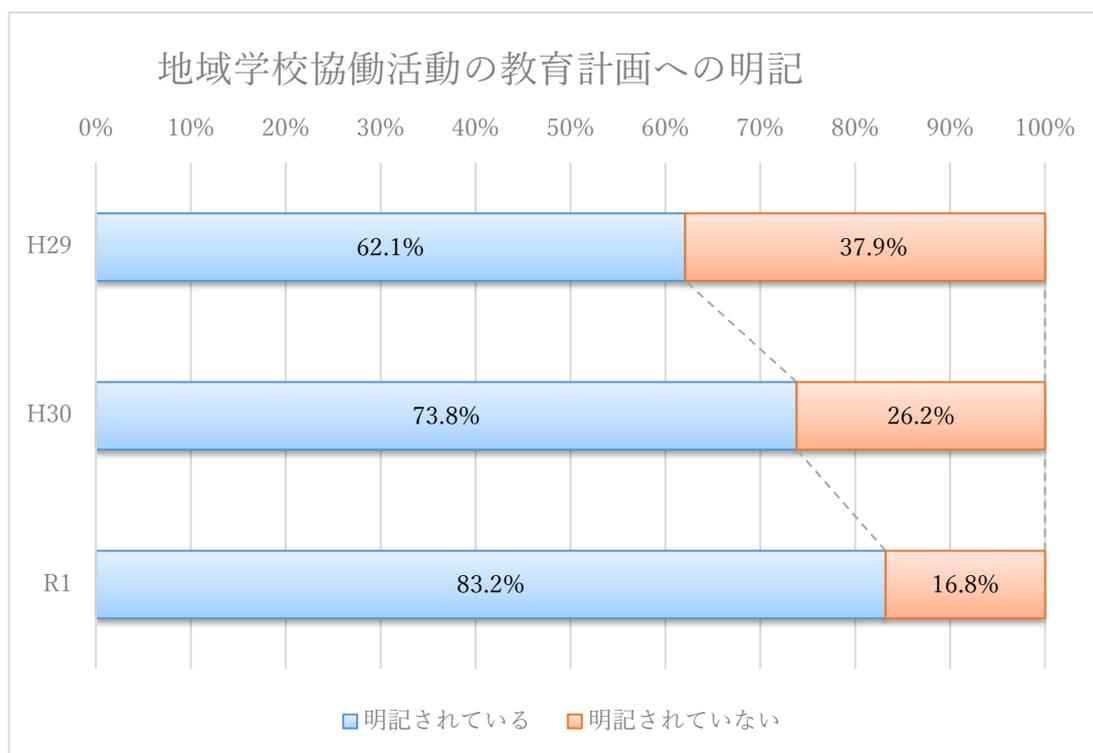
地域連携担当としての職務には次のようなものが考えられます。これまで実施してきた地域と連携・協働した教育活動を持続可能な活動となるように、そしてブラッシュアップできるような体制づくりが必要です。そのリーダーとしての役割が求められます。

①地域と連携・協働した教育活動の総合調整（プランナー）

- 計画の作成及び改善（目標・活動計画等）
- 年間指導計画への位置づけ
- 地域と学校の連携・協働についての校内研修の企画・運営

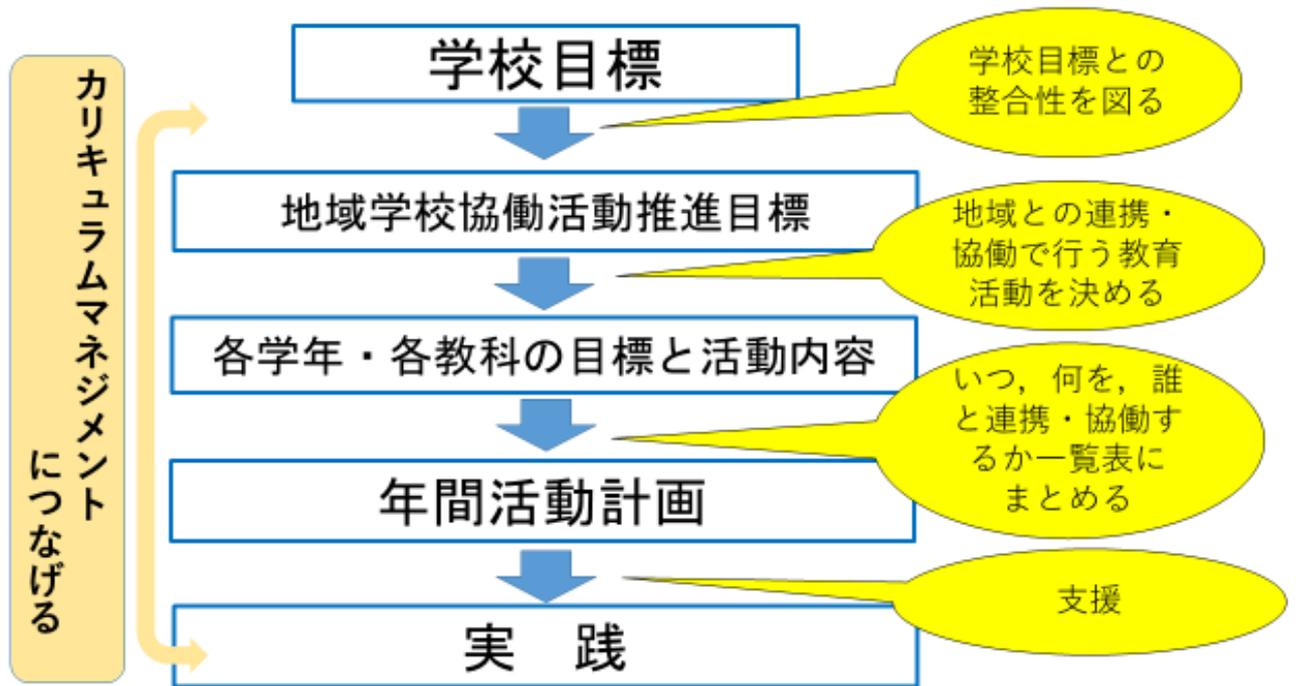
地域連携担当は地域との連携・協働プランナー

各学校には、教育計画等に「地域学校協働活動（含・協働教育）」に関する目標や計画を明記するよう働き掛けています。今年度の地域学校協働活動アンケート調査では、「明記されている」と回答した学校が381校中317校となり、昨年度と比べ9.4%増加しました。令和3年度には、目標や計画の明記が100%となることを目標としています。令和2年度中の準備をお願いします。



具体的な計画の例はH29発刊の「はじめよう！『地域学校協働活動』」
に示されているので参考にしてください。

学校の教育目標との整合性を図ったり，各教科との関連をまとめたり
することが必要です。カリキュラム・マネジメントを意識し，学習活動を充
実させましょう。



②連絡・調整や情報収集・発信（コーディネーター）

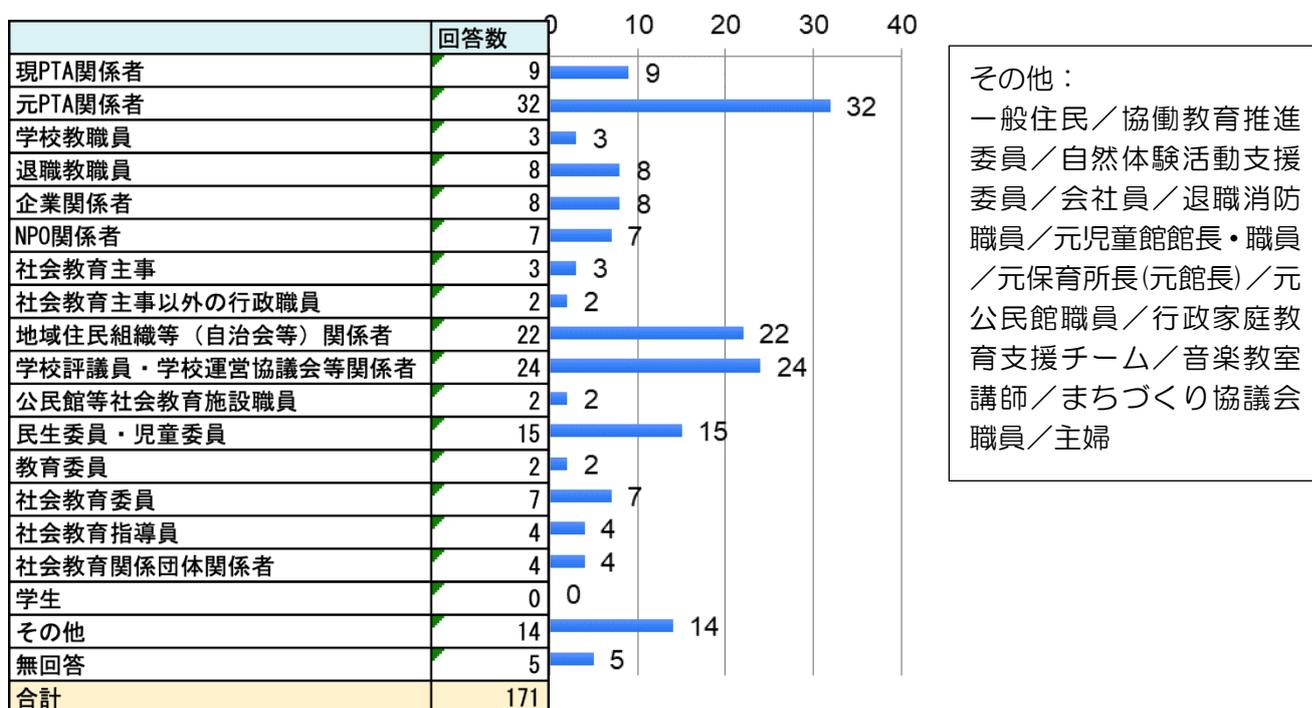
- ・学校から地域との連携・協働に関する情報発信と地域の情報収集
- ・地域との連携・協働に関する研修会への参加と校内における伝講
- ・地域コーディネーターや地域団体、ボランティアとの連絡調整
- ・教育事務所、市町村教育委員会、公民館との連絡窓口

地域連携担当は学校のコーディネーター

地域コーディネーターがいる場合には、連絡を密に取りながら良好な関係づくりに努めましょう。地域コーディネーターがいない場合には、教育事務所・市町村教育委員会の社会教育主事や地域学校協働活動担当者と積極的に連携することが大切です。堅く考えず、気軽に相談してください。

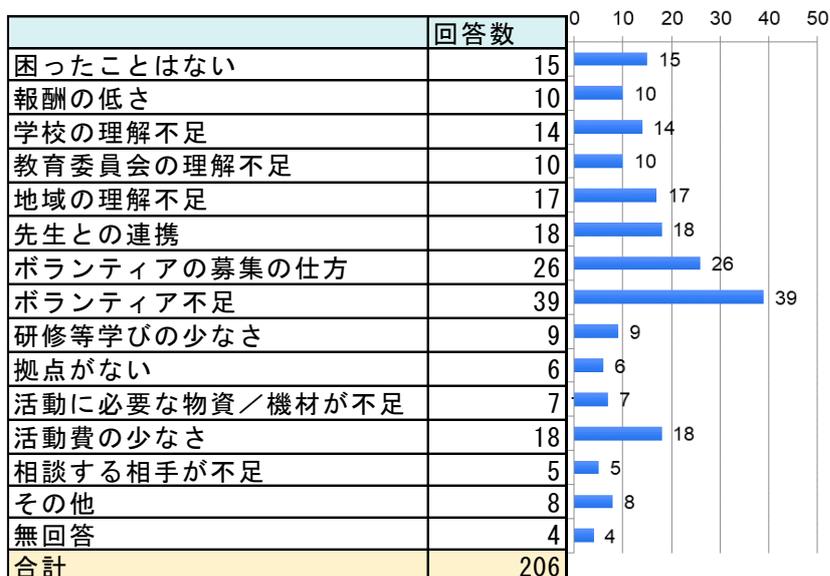
下に、みやぎ教育応援団「NPOまなびのたねネットワーク」が県内の地域コーディネーターにアンケート調査をした結果（回答数97）を載せました。参考にしてください。

＜地域コーディネーターの職種・役職等（複数回答可）＞



多種多様な方々が、地域コーディネーターとして活躍しています。県教育委員会では、コーディネーターの育成に係る研修会を年に5回開催し、コーディネーターの養成に努めていますが、コーディネーターとなり活躍されている方はまだ少ない状況です。地域にコーディネーターがまだいない場合には、相応しい方を学校から当該教育委員会にぜひ紹介してください。

<コーディネーターをやっている困っていることは何ですか？(複数回答可)>

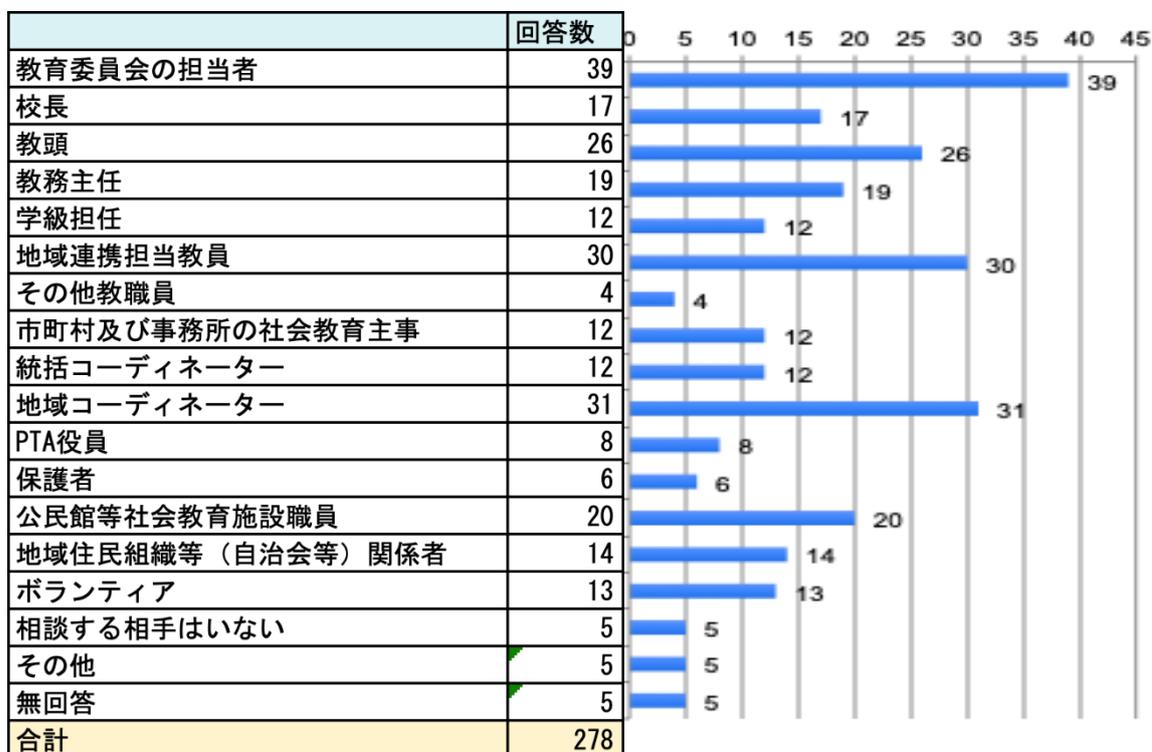


その他：

他地域との比較／コーディネーターという存在が認知されていないため、地域ボランティアを募集するルートが確立されていない／自地域は公民館長が主体となって活動しており、コーディネーターが必ずしも必要な環境とはいえない／学校側に新しい教育プログラムを組み込む時間的余裕がない／自分がなかなか参加出来ない／後継者不足の悩み／講師の高齢化に伴う人材不足／公民館担当者との連携

コーディネーターは「子供たちのために、学校のために頑張りたい」と強く思っていますが、多くの悩みを抱えていることが調査結果から分かります。また、地域連携担当の先生方も悩みを持っているのではないのでしょうか。積極的に連携を進めたり、管理職から助言をもらったりしながら、ぜひコーディネーターとのコミュニケーションを深めてください。そうすることで、互いの悩みが解決し、地域学校協働活動が一層推進されます。

＜コーディネーターの仕事について、相談するのは誰ですか？（複数回答可）＞



その他：教育委員会の上司／学校運営協議会会長／県協働教育班／地域住民、役員／事情をよく知る友人

地域連携担当が校務分掌に位置付けられる前は、コーディネーターは教頭に相談することが多かったようです。現在は、地域連携担当が相談役になっていることが分かります。

このことは、地域学校協働活動が組織的に推進されていることを示しており、今後も地域連携担当者の活躍が期待されるところです。

③地域と連携・協働した教育活動の実践と評価（アドバイザー）

- ・校内での効果的な活動に向けた支援
- ・学校から地域に向けた活動への支援
- ・計画や活動内容等についての評価と次年度に向けた改善

地域連携担当は地域との連携・協働アドバイザー

アンケート調査を
してみましょう

評価の対象と質問項目の例

児童・生徒

- ・教科の目標が達成できたか
- ・進んで活動に取り組めたか
- ・ボランティアの人たちに教えてもらいよく分かったか
- ・地域に関心や愛着が持てたか。

教員

- ・指導内容の充実が図られたか
- ・ボランティアと学習目標が共有できたか
- ・円滑に活動を進められたか

保護者

- ・地域との連携・協働による活動をとおして子供に変化があったか
- ・子供が地域に愛着を持つようになったか

全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査には地域と学校の連携・協働に関する質問として下の2つの質問があります。この結果を地域住民や保護者に伝えることも大切です。

児童質問紙調査（小学校）		宮城県 （仙台市を除く）		宮城県 （仙台市 を含む）
質問 番号	平成31年度 質問事項	県	県一全	
(23)	今住んでいる地域の学校に参加していますか	75.0	7.0	75.9
(24)	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	55.4	0.9	57.4

児童質問紙調査（中学校）		宮城県 （仙台市を除く）		宮城県 （仙台市 を含む）
質問 番号	平成31年度 質問事項	県	県一全	
(23)	今住んでいる地域の学校に参加していますか	53.1	2.5	54.0
(24)	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	40.9	1.5	43.1

ここからは実践事例だよ

